



## 福島 93 便（視察研修 6 号）報告書

### 《相馬市》

#### 1. 実施日

2019 年 2 月 16 日（土）

#### 2. 目的

- (1) 東日本大震災と原発事故を『伝えていく』
- (2) 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- (3) 自分達にできることを『考える』

#### 3. 主催

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

#### 4. 協力

相馬市

相馬市千客万来館（相馬観光復興御案内処・相馬市観光協会）

ホテルみなとや

一般社団法人そうま食べる通信

富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部（バス、活動報告冊子化）

azbil みつばち倶楽部（活動報告冊子化）

#### 5. 視察研修実施資料

福島 93 便（視察研修 6 号）＜相馬市視察研修＞案内資料 v1.0（別紙）

（相馬市の紹介、被災状況、他）



## 目次

1. はじめに.....	3
2. 視察研修場所・時間等.....	4
3. 視察記録（写真一部） .....	5
4. 視察研修参加者報告.....	9
5. 参加者情報.....	20
6. 視察研修便参加者アンケート集計 .....	21
7. 会計（実績） .....	23



## 1. はじめに

相馬市

企画制作部 企画政策課 課長補佐兼復興推進係長 荒川誠 様

企画制作部 企画政策課 復興推進係 主査 星杏奈 様

千客万来館 管野昌孝 様（相馬観光復興御案内処）

復興支援員 主任 井島順子 様

小幡広宣 様（そうま食べる通信共同編集長／株式会社広栄土木 代表取締役）

ホテルみなとや（女将 管野忍様）

一般社団法人そうま食べる通信（常世田 隆様、飯塚哲生様、黒田夏貴様）

ご多用にもかかわらず、この度の視察・研修に丁寧にご準備、ご対応いただいたすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。実際に現地を訪れて話を伺うことで初めて感じられることもあり、貴重な機会となりました。

また詳細な最新の資料をご用意いただき、復興へ向けての実情と課題について理解を深めることができました。これらの資料は、今後の活動に際して何が必要なのか考えていく良い資料になると思います。ありがとうございました。

私達が現地に足を運ぶ理由

自分が現地に行って・自分の目で見て・自分の耳で聞いて・自分で体感して、感じる  
そして、正しく知り、正しく伝える、それが大事なことと考えます。

現地に足を運んで初めてわかることはたくさんあります。

今回の訪問はとても貴重なものと思います。

参加者一同大切にさせていただきたいと思います。

かながわ「福島応援」プロジェクト  
代表 渡辺孝彦 / 広報 東尚子  
参加者一同



## 2. 視察研修場所・時間等

### 2.1. 行程

2019 年 2 月 16 日（土）

- 07:00 横浜出発～首都高速、東神奈川～
- 08:33 常磐自動車道 守谷 SA（15 分休憩）
- 10:07 常磐自動車道 中郷 PA（15 分休憩）
- 11:50 常磐自動車道 南相馬鹿島 SA（50 分昼食）
- 12:55 相馬市千客万来館
- 13:00 相馬市役所職員の復興計画ご説明・質疑等
- 14:30 相馬市千客万来館の案内による市内視察  
（防災備蓄倉庫、磯部水産加工施設、大洲海岸など）
- 15:30 伝承鎮魂祈念館（語り部の方のお話）
- 17:00 ホテルみなとや

### 2.2. 相馬市視察研修の様子

相馬市観光協会 千客万来館の会議室をお借りし、相馬市企画政策部職員の方から復興の状況について説明を受けたあと、相馬市観光協会スタッフの方にバスに同乗していただき市内を視察した。防災備蓄倉庫では、どのような設備があり何が備蓄されているのか、他自治体との協力関係について説明を受けた。磯部水産加工施設に併設されている売店では、水産加工品を購入できた。太平洋と松川浦に挟まれた大洲海岸は、震災で不通となっていた道路が再開通し、すばらしい眺望が見られた。松川浦大橋を渡って伝承鎮魂祈念館に移動し、語り部の五十嵐様に震災当日の状況をお聞きした。

宿泊先では、「そうま食べる通信」編集部から 4 名の方にお越しいただき、魚料理の夕食をいただきながら、それぞれのお仕事の状況や地元・相馬への想いを伺った。

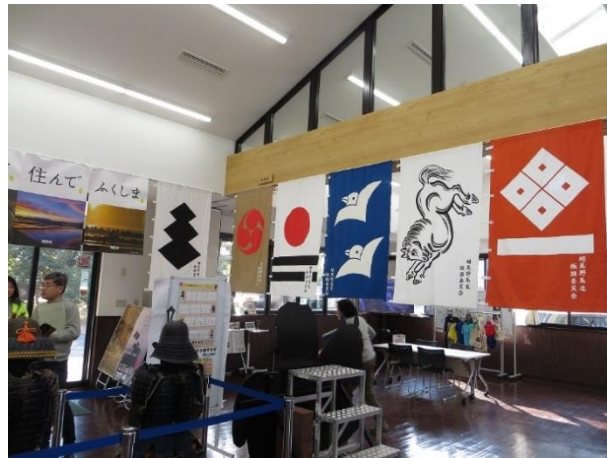
### 2.3. 視察研修資料等

資料名	ご提供
相馬市の復興への取り組み	相馬市役所（復興ご説明資料）
相馬市復興施設かわら版	同上
相馬市住宅再建瓦版	同上
平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災 相馬市 5 年間の記録	同上
平成 23 年 3 月 11 日発生 東日本大震災 相馬市の記録 第 8 回 中間報告	同上
相馬市観光情報（各種冊子等）	相馬市千客万来館

### 3. 視察記録（写真一部）



相馬市 千客万来館



相馬市 千客万来館内



相馬市 荒川誠様 ご講話



相馬市防災備蓄倉庫



相馬市防災備蓄倉庫（派遣自治体）



相馬市防災備蓄倉庫（支援物資自治体）





相馬市防災備蓄倉庫（内部）



相馬市防災備蓄倉庫（内部）



相馬市防災備蓄倉庫（内部）



相馬市防災備蓄倉庫（内部）



磯部水産加工施設



大洲海岸





大洲海岸（松川浦の海苔養殖）



大洲海岸



伝承鎮魂祈念館



伝承鎮魂祈念館（語り部の五十嵐様と）



ホテルみなとや（夕食）



ホテルみなとや（相馬のカレイ）





そうま食べる通信のみなさまと



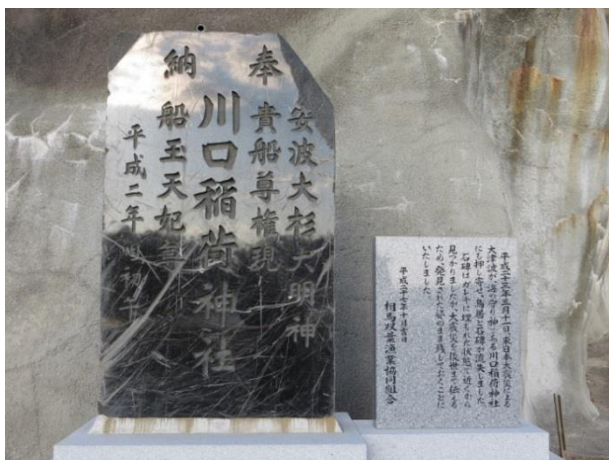
松川浦の朝日



ホテルみなとや（朝食）



松川浦大橋



川口稲荷神社の石碑



ホテルみなとやの女将さんと



#### 4. 視察研修参加者報告

参加者が視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、などを視察研修報告として提出していただき、以下に参加者研修報告としました。

ご高覧いただけましたら幸甚です。

なお、参加者の研修報告の内容・文章は変更を加えていません。

記録上、不適切な内容・表現があるかもしれませんが、それぞれの参加が実際に感じたことです。ご理解いただけましたら幸いです。

また、参加者氏名は無記載とさせていただきます。

《以下、参加者報告》

##### 【参加者：男性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

###### ○相馬市の復興状況について（市職員の方のお話）

たくさんの資料が配付され、詳しいお話を伺った。原発事故発生時、市長の判断で住民避難を留まったことなど他の自治体と異なる対応をとられた話が印象に残った。判断の根拠となる放射能に関する知識の普及が鍵であったこと、また、現在も放射能に関する教育に力を入れて正しい知識の普及を継続していることなどが参考になった。避難をしなかったため、市全体の復興が早かったことには納得した。さらに、住宅や様々な施設を建設・整備して、市の発展を計画されていることがわかった。災害住宅の交通や買い物に、市の細かい配慮がなされていることに感心した。

時間が無かったので質問できなかったが、2点疑問が残った。1つ目は、少子高齢化時代の中で、新設した施設・既存の施設を、将来的にも維持・運営していけるのか、予算の裏付けを知りたかった。2つ目は、観光戦略をどう考えているかを知りたかった。どのように情報発信をするのか、建設中のバスターミナルや JR から観光施設までの交通の便、観光施設をどう運営していくのか、これから訪問が増える外国人への対応はどのようなかなどを知りたかった。

###### ○防災備蓄倉庫の視察

すばらしい備蓄倉庫であった。十分な容積の建物に、十分な量の災害用品を備蓄し、品名・数量をコンピューター管理して、棚を区分けして、必要な品を素早く取り出す工夫がしてあった。一定期間の保管期限で物品を入れ替えている。停電など非常時も備えているなど、完璧な倉庫であった。気になる点は、倉庫までの輸送道路が田畑の中の一本道であるので、緊急時の通行障害への対処だけである。

施設内外に設置されている大震災で殉職された消防団の方の遺影と碑には、自分の命と引き替えに職務を全うされた方々への感謝の念と、災害を風化させまいとする決意が心に響いた。

## ○磯部水産加工施設の視察

きれいな建物だった。現在国が推奨している産業の 6 次化に対応する施設であるが、品揃えも少なく、現在は地元の人向けの直販所といったところか。これからの発展に期待したい。

## ○伝承鎮魂記念館（語り部さんのお話）

話を聞いていると引き込まれてしまう、当時の状況を思い描くことができる、とてもすばらしい語り部さんのお話だった。身内の方も亡くなっているので話をするのがつらいはずなのだが、それでも他の人々に伝えようとしている思いが感じられた。また、明るい表情で話をすることで聞き手に過度の心の負担を与えまいとする配慮に感心せざるを得なかった。語り部の方には、今後も元気でいてもらいたい。

## ○その他

市職員の方のお話には、我々関東の人間には耳に痛いことがあった。放射能の教育であるが、そのような知識は、被災地だけではなく、全国で必要なことである。正しい知識の普及が足りないばかりに、福島県産物に対する風評被害が起こったり、原発避難者への差別が起こった。原発避難者の子供へのいじめは、大きく報道され、社会問題になった。これらの騒動は、知識が無いため、知識を勉強しなかったために起こった大変に恥すべき事件であった。今もって、正しい知識の普及がなされているとは感じられていない日本の教育（児童だけではなく、国民全体への）何と寒い現状か。今後も、同様な風評被害、差別、いじめが起こるだろう。

**【参加者：女性 60 代】**

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

## ○被災当時の状況から

- ・ 被害の大きさを改めて知る。
- ・ 原発事故の混乱の最中、避難せず市内に止まる判断をした長の判断力は統括する立場たる者、如何に専門的な判断力が必要であるかを改めて感じた。その後の放射能拡散の恐怖と物流のストップによる厳しい生活は想像を絶するものであった。

## ○復興計画から現在の進捗状況

- ・ 基本理念、目指そうとするイメージが明確に掲げられている。ワークショップなどを経て市民や専門家などの意見を丁寧に取り入れ復興計画を築き上げた経緯が理解できる。
- ・ 仮設住宅マネジメント等、初期の混乱期でも地域のコミュニティを大切にした仕組み

づくりが考えられていた。

- ・ PTSD 対策 震災後早期から相馬市独自の対策を打ち出している。
- ・ 町づくりに向けた取り組みとして、住宅再建 防災集団移転促進事業及び公営住宅整備事業計画を基に進められ、平成 27 年 3 月に災害市営住宅の整備が完了。
- ・ 孤独死対策として造られた相馬井戸端長屋などは他都市でも参考となるものと考えられる。
- ・ 生活支援の 1 つ、買い物弱者対策としておでかけミニバスの運行事業などきめ細かい配慮が取り組みの具体例として掲げられていた。
- ・ 震災の教訓を活かされた 1 万人分と言う十分な収容能力と支援物資のスムーズな搬入搬出機能と防災教育研修機関としての機能を併せ持つ防災備蓄庫（相馬兵糧蔵）と既に他の被災地へ向け援助活動も始められその機能を果たしている事が理解できた。受援力としての仕組みづくりについて詳しく聞いてみたかった。
- ・ 農地の復旧事業では大学などとの連携により、表層と深層との入れ替えや酸性化を防ぐなどの土壌改良（相馬方式）が進み農耕が再開されつつある。
- ・ 市民の健康増進をめざして、遊具施設や体育館の建設、各種のイベントの企画により運動不足を解消する具体的な取り組みが紹介された。
- ・ 市道大洲松川線の再開通とその周辺の港湾施設の見学では、復旧した道路から松川浦の美しい景観を眺め地場産業の再開の様子を伺い知る事が出来た。
- ・ 心の復興をめざすとりくみとして、計画に基づき心の面へのアプローチが順次なされている。今後の成果が期待される。
- ・ 漁業の現状は沿岸部で唯一の造船所が当地にあり、早期に漁船の確保が出来た。松川浦港には、白魚漁船や底引き網船が出漁に向け整然と並ぶ様子を見ることができた。原発事故の影響により未だ漁獲の制限があり、「週に一度じゃ、体が鈍っちゃう」と呟かれた漁師さんの言葉が印象的だった。
- ・ 新しい町づくりにむけた取り組みが計画的に進み、災害に強い町づくりを随所で見せて頂くことができた。

#### ○感じたことなど

8 年が経過する現在、復興への課題はまだ多く残されている事を実感するが、厳しい状況の中でも前に進もうとする人々の逞しい姿を見せていただいた。懇親会にお越しいただいたみなさんの笑顔とお話からもその気概をたくさん感じた。

相馬市は、市庁舎や訪問した千客万来館をはじめ、その後見学した相馬兵糧蔵（防災備蓄庫）、磯部水産加工施設、伝承鎮魂記念館など市内の再建された建物は和風に統一され、街全体がテーマパークの雰囲気さえ感じる。中村藩の城下町として栄えた相馬市の伝統を大切にされている市民の郷土愛を強く感じた。マップを手に市内をゆっくり歩いてみたい、観光都市としての魅力も感じました。自然に恵まれ、農業・漁業を震災前から発展する産業





○二日間を通して

2つの市町を視察させて頂き、メディアからは伝わらない復興の進捗状況と今後の課題について理解することができた。厳しい現状を抱えつつもインフラ整備や生活環境だけでなく丁寧に心の復興を進めようとする様子に触れ、復興には何が大切かを教えられた二日間でした。災害の多い日本が共有して行きたい内容が多く込められていた様に感じます。

今回、貴重な研修をさせて頂き、視察研修を企画してくださった役員の皆様に改めて感謝いたします。

### 【参加者：男性 60 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

#### 1. 視察研修報告

これまでの視察研修は、富岡町～浪江町、葛尾村、川内村と原発事故による避難指示を受けた町村でした。今回の相馬市と新地町は、避難指示を受けなかった初めての市町でした。

避難指示は自宅や地域社会を離れて他の市町村に避難せねばならず（結果的には長期に亘って）想像を絶する大変さを感じ取ってきました。相馬市は避難指示こそありませんでしたが、津波警報を受けて多くの方々が避難された点は同じです。

当時の市の対応についてお話を伺って大変印象に残ったのは、一つは避難所を地域単位でまとめて地域社会の維持が図られた点、これは仮設への入居時も同じですね。もう一つは市民への正しい最新の情報提供として、「そうまさいがい FM」の立ち上げと「広報そうま号外」が週 2 回発行された点です。津波の被害状況や避難の現状、原発事故に対する不安の解消、にとっても役立ったと思います。約 8 年経った今でこそ、上記のようにあるべきとの認識をもっていますが、発災当時直ぐに対処されておられ、市長や市職員の方々の意識の高さを思いました。

また、復興基本理念に挙げられた「地域社会の形成」と「安心、安全な新たな地域社会」についても、前者は地域ごとに高台への防災集団移転等に結びついていきますし、後者は外部／内部被曝調査と対策、正しく対応できるよう放射線教育と市民の健康管理、あるいは孤独死対策としての井戸端長屋等に結びついていきます。原発事故のその後の対応について、国の対応が後手後手であいまいとの印象を持っていますが、相馬市では市民の目線でしっかりと対応されていると感じました。

#### 2. お礼

相馬市職員の方々、相馬観光協会の方々、語り部の五十嵐様、そうま食べる通信の方々等、休日にも係わらず対応して頂いた全ての皆様に感謝いたします。相馬市の発災当時と現状を良く知ることができました。

**【参加者：女性 50 代】**

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

千客万来館で荒川氏の話伺いました。

避難所開設と正しく、新しい情報を届けること、支援物資など相馬市の避難状況を伺いました。コミュニティが平常時から成り立っている様子が伺えました。

被災状況と支援、相談、処理、現状の様子を住宅、教育、津波被害・漁師の支援状態と企業誘致の話伺いました。

また、市長の発信力と決断力の話はいろいろな方々から伺うことができました。

野馬追の時期と違い観光の人は少なかったですが、各部屋で現在の状況発表など開催されていました。外からのアドバイスや支援を上手に受け取っているようです。

また災害対策復興会議は今も月 1 回続き、情報共有は変わらないようです。

農大方式、水田の再生をするため、除塩と除染をし、水田再生にスラグ（鉄分）を混ぜ、何度も繰り返し耕し、土壌改良やっと収穫されるようになった水田も見ることができました。

観光協会の井島さんの話は、当時のご自身の話も含め、一つの予算を獲得する大変さと決めるまでの何度も繰り返し話し合う事の大事さ、そして相馬・ふるさとに対する想い、愛情を二人の子の話からも感じました、同時にその時の大変さと現状もうかがい知ることができました。井島さんの交流関係と知識、話術がこれからもたくさんの何かを生み出すパワーの一つでもあるようです。

福島の若者がとても元気に活動し、多岐にわたる分野で協力し合う関係はそんなところから生まれていると感じました。異業種で交わることがなかった若者が、被災したことから共にいい関係を作り上げている、もちろん自分の仕事が理不尽な状況で、仕事ができない時期を他の仕事をする事で乗り越え、これからどう生きていくのかをしっかりと受け止めた結果だと思います。

備蓄倉庫は行って見たかった施設でした。各地の見学者が素晴らしいと絶賛する要素がいっぱいです。ヘリポートも初めて知りました。布団の数とマンパワーもすごいです。

平常時にも防災教育などにも活用され、相馬兵糧蔵というネーミングからも相馬中村藩を感じます。トイレの増設をするそうですが、宿泊、研修を含め有事には活躍を期待できます。電源がない状態での利用も可能で、いくつもの災害を乗り越えたことから考え、予算も組まれ、購入先もいろいろな工夫がされており、ほぼ空の低温米貯蔵庫は届けられた米を無駄なく使うための工夫も考えつかなかったです。他県への貸し出しも柔軟にされている様子は素晴らしいです。

殉職された消防団の写真は、甲斐さんの DVD・市長メルマガの発信に出ていた方々も... 消防団は他の町でも悲しい話を伺い胸が痛いです。



災害対策拠点・市庁舎の避難所として使える工夫は、都内でも一部病院や公園で用意されていましたが、各地にもっと増えるといいなあと思いました。

給食無料化、子供の教育・運動施設と大変ながら始まっている様子が伺えます。

これからの子供たちの成長を楽しみにしています。

今後の相馬市は道の駅、海産物販売所、道路の開通などにより、どれだけ集客できるものがあるのか、隣接する市町との兼ね合いもとても気になります。

7月の海開き前のビーチクリーンに参加できたらと思いました。

語り部 五十嵐さんから当時の様子を伺い、たくさんの質問にも答えていただきました。風が強く寒いなかお見送りしていただき、本当に感謝いたします。お孫さんの写真を見せていただき、ホッといたしました。

小幡さん、常世田さん、飯塚さん、黒田さんとの会食は楽しくお話を伺うことができました。そうま食べる通信を通じて新しい関係ができている様子が伺え、若いパワーも感じられます。海の話、原釜、食べる通信、ご近所の話などと美味しい魚をタラフクいただき楽しいひと時でした。飯塚さんの話で仲買人のあり方も初めて知りました。

美しいなっちゃんの生き方も若いのにしっかりしていて、素晴らしいです。

相馬に想いを持つみなさんの話がそこでつながり、広がっている様子が良かったです。

### 【参加者：男性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

相馬市を視察して初めて知ったのは、相馬市の被災者だけでなく南相馬市の被災者が避難してきたこと。原発風評被害で支援物資がストップしたこと。

復興はかなり進んでいるが、公共施設を作りすぎているように感じた。

折りたたみリヤカー、組み立てトイレ、石油ストーブ、発電機、災害用煮炊き釜、ポリタンク等を備蓄している。各自治体に防災備蓄倉庫があれば、有事の際、とても役立つと思う。

磯部水産加工施設は地元の方が頻繁に買い物に訪れていた。

相馬市伝承鎮魂祈念館では津波で流された語り部の方のお話で潮が引かなかったのですぐに避難しなかったと話していて、潮が引かなくても津波は来ることがわかった。

災害公営住宅の孤独死対策の相馬井戸端長屋は、共助の精神でお互いを見守りながら暮らしていて、とても良いと思う。





**【参加者：女性 60 代】**

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

●福島は地震の被災地だということ

つい原発被害を考えてしまっていたが、原発問題とは別に（またはその前に）地震と津波で多くの被害を受けた地だということを忘れていたことに気づかされた。

●8年経ったということ

相馬市職員も商工会議所の方も新地町職員も、今日までの経緯を語ってくださったが、当時あったはずの混乱や困難などの詳細はあまり語られず、あるいはこれからのことにそのことに‘過去のことなのだ’と感じた。

それはごく当然なことで、むしろ8年経ってようやく、であったり、8年経ってもまだ、というべきかもしれないけれど。

その中で語り部の方があの日をつなぎとめていてくださるのだな、と。

●自治体のこと

相馬市では市長のリーダーシップが随所に感じられた一方、新地町では職員の発案がいかにされていることが印象的だった。とかく行政には不満を抱きがちだが、職員・担当者は皆さん相当な責任や負担を熱意で乗り越えておられるのだと思う。殊に災害時の復興には行政と市民（民間）の協調がとても重要だと感じた。

●その他

行きの車内で甲斐さんが持参くださった映像を見ることができたのがとてもよかった。ありがとうございました。

東さんには手際よく皆をまとめていただきました。ご苦労さまでした。

**【参加者：男性 50 代】**

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

「相馬市の復興への取り組み」を聞いて（相馬市役所）

避難所開設/設営に当たって重視したのが、地域ごとのコミュニティを維持すること  
これは原発の避難指示が出なかった（市長判断で出さなかった）ためにできたこと  
情報の錯綜が一番の課題、特に原発関連は科学的理解が低いと起こりやすいこと  
広報誌を2回/月を発行、行政による新しい/正しい情報発信をするため

災害FMは、店舗(特にガソリン)情報だけでなく、音楽により心の支えの役割をした  
仮設住宅マネジメントは、役場や組長会長（以下、組長>戸長）を通じて運営管理人の管理は、健康、心のケアまでを実施

51 名の孤児支援は、毎月 30,000 円や進学/下宿費用の平均 1,000 万円/人を支給  
全額寄付でまかなわれた

国の 10 年復興計画に沿ってマスタープランを Ver3 まで改定

被災者が恒久的住宅に移っても自立した生活を営むため高齢者/子ども/青壮年別に策定  
子どもの成長（アート/音楽）、高齢者孤独死対策のため井戸端長屋風な住居に  
東京農業大学の支援により、ミネラル豊富な農地復興として相馬方式土地改良

#### 「相馬市防災備蓄倉庫」

倉庫(約 750 m<sup>2</sup>)は 1 万人の 3 日分の生活食料、調理資材、被災時生活物資

全国の自治体からの支援申し入れあるが、原則として買い入れている、米も備蓄できる  
直近の全国の支援災害に貸し出し/提供しているものも多い

14 自治体（小田原市など）と災害時相互応援協定を締結

#### 【所感】

相馬大好きという人、発言を多く耳にし、地元愛にあふれ、人々のつながりが深い  
原発避難を行なわなかった市長の判断は英断であったが、震災当時も今も強いコミュニ  
ティがあり、組織だった仮設住宅マネジメントも成り立ったものと思う

大きい町で、行政が計画する復興計画に従って着々と事業が執行されている

子どもや高齢者などに手厚いケアがされていて、8 年で新しい町の骨格が形になっている  
印象を受けた

#### 【参加者：女性 60 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

●原発被災を、避難を、福島ととらえていた自分（もちろん風評被害は会津まであり）  
あまりに近いのに遠くの地と思っていた自分。

市役所でのお話、そして詳しく記録されていた冊子をいただき、相馬の被害状況を知  
ることができました。強い市長、相馬が崩れたら、仙台が、そして東京が、そして日本が  
崩れるとの言葉、避難所の立ち上げから様々な手配の機敏さ、対策会議の充実さなど。  
市民の市長への信頼の大きさなど素晴らしい相馬市でした。

#### ●防災備蓄倉庫

充実した備蓄を初めてみた。九州など今現在貸出、寄付などで棚の空きはあるものの、  
相馬市は日本中どこでもすぐ対応できるように布団、水、ストーブ、調理器具はもちろ  
ん、巨大な米庫（空にしてある）もありました。そして上部には 311 で寄付、応援をい  
ただいた全国市町村の名が張り出されていた。東北三県で一番の設備とのこと。

**●磯部水産加工施設**

開業三周年とのことで、たくさんの来客があったそうです。これから相馬でもっともっと豊富な種類の魚が獲れるようにと願った。

**●伝承鎮魂祈念館**

ビデオ視聴。チリ地震の写真があり、橋の下を水が速度を上げて流れるも平然と道行く人々、引き波のあと打ち上げられた魚を拾いに行ったと。そして 311 の日もその記憶のある高齢の方々がなかなか避難せず、残念な結果になった方もあると。防災無線でも 6m とあり、タカをくくり、家まで上着を取りに帰ったりした方も。家の片づけをしていた方もいたと。

**●語り部 五十嵐さん**

ご主人、おじさまと 3 人で。足の悪い方で、波に追いつかれ、水の中でつないでいた手がとうとう離れてしまった瞬間、そしてご主人が「ヒデ子～、ヒデ子～」と名前を呼びながらと、その時をお話してくださいました。

低体温症であと 5 分発見されるのが遅かったら、等……。時にユーモアを交え、「暗く話をされたら皆さんイヤでしょう、これからは女キミマロを目指して、もっと上手にしゃべれるようになりたいです」と涙を交え話されました。語り部の方が、前向きに、私たちが沈まないように、丁寧な言葉で、津波体験の恐ろしさを伝えて下さる、貴重な体験をさせていただきました。

**●そうま食べる通信 懇親会**

小幡さん、飯塚さん、黒田さん、常世田さん。

漁師さんの話が興味津々でした。長男しか船を継げないこと、子どもの頃から、漁師になるのなら勉強せずに網の繕いをやれとか、先生が魚の図鑑でも見とれ等、男社会の話。海の上で亡くなる人も多く、高額を稼ぐが命がけである。船まちの女性軍の活躍もすごい。500 人の相馬の漁師、派閥もある。若い漁師が多いとのこと。震災の時、小高や請戸の船が港に入れてもらえず困ったと言うも、自分たちのことで精いっぱいだ、皆命がけだったと。

（懇親会が食事からであり、コの字のテーブル席で。遠い席のメンバーは話を聞くだけとなり、途中で席を変えようとするも誰も動かず。ゲストも横並びで仲間はなしになりがちの気がした。にぎやかであったが、食べる通信の話は特になかった気がする。）

**●みなとや**

観光協会の井島さんが「食べきれないほどの魚料理ですよ」と。





朝焼けから日の出と絶景だった。朝、食堂からの風景も。

おかみさんのお話も聞きたかった。

●港で漁師の方と朝

週に 2 回の操業で、酒ばかり飲んで、皆体がなまっている。

漁師は食事も魚がないとはじまらない。今じゃスーパーで魚を買っている。

●自分たちにできることは何だろう

ご縁で訪れた、食べる通信のこれからを応援？また相馬に行くこと？

kfop として視察の企画があったからのこの貴重な経験を参加できなかったメンバーにま  
ず伝えたい。

相馬に避難された多くの南相馬市民を、すばやく受け入れる体制を作り、物資提供にも  
医療の面でも大きな力となっていた相馬市のことを初めて知り、今まで思いをはせるこ  
とがなかった相馬に改めて敬意を払いたいと思った。

【参加者：女性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

はじめに相馬市職員の方から復興への取り組みについてご説明いただいた。相馬市役所は  
海岸から離れていたため津波の被害を受けず、災害対策本部として機能できたことが大き  
かったのだろう。市独自の支援金を支給すると決めたことで、本人確認による安否確認と  
住民基本台帳との突合ができたとのこと。

相馬市は福島第一原発から約 45km の距離であるが、国からの直接の指示がなければ避難  
しないと市長が決めたとのこと、各被災自治体の首長のリーダーシップと判断がその後  
に大きく影響したことに、あらためて考え込む。

印象に残ったのは、市民への情報伝達のために震災直後から『広報そうま』号外を週 2 回  
発行されたこと。5/16 までは紙で発行していたが、紙が底を尽きたためそれ以降は地区で  
の回覧としたとのこと。大きな災害のときは正確な最新の情報を伝えることが混乱を落ち  
着かせるために大切だと思うので、市が発行する号外はきっと有用だったのだろうと思う。  
また「そうまさいがいエフエム」を通じて市や市民ボランティアが情報発信していたとの  
こと。

相馬市の災害公営住宅は、戸建て以外に、主に高齢者の孤独死対策のため長屋形式のものも  
建設されている。それぞれの居室のほかに、食事や洗濯をしながらのコミュニケーション  
ゾーンが設けられていることは、過去の教訓から学んだすばらしい施策だと思う。

農地の復旧には東京農業大学が支援に入っており、塩分の混じった土を剥いで入れ替えな  
くとも済む「相馬方式」が確立されたそうだ。また漁業関連施設の整備として、公営住宅

には網や延縄の手入れができるような広いスペースがないため、港に漁労倉庫が作られている。他にも立派な設備ができており、相馬にとって漁業は大きな産業であることが伺えた。

そのあと観光協会のスタッフの方にバスに同乗していただき、相馬市内を視察した。相馬市内は城下町だけあって道が細く複雑なのだそうだが、震災時に車両が通れず物資を運べなかった避難所もあったという教訓を活かし、新しく作られた防災備蓄倉庫は、車両が行き来しやすい場所に作られたとのこと。自家発電設備や消火設備も当然あり、備蓄品（特に消費期限のあるもの）はコンピューターで管理されている。一部のシェルフが空いているのは、最近の豪雨災害や地震の被災地に物資として提供されたためだとのこと。倉庫内の壁には、協力関係にある自治体や支援を受けた自治体のネームプレートが飾られている。単に物資を保管するだけでなく、つながりを忘れないことにも意味があると思う。

伝承鎮魂祈念館では、海水浴場近くで民宿を営まれていた語り部さんのお話を伺った。民宿の片付けをしながら、津波が来るかどうか近所の方々と直前まで様子を見ていたという。命を守ることの難しさ。家族を失った辛さを抱えながら、伝えることで供養になるからと笑顔で話をされる姿に頭が下がった。

相馬市内の公共の建物は和風建築で統一感があり、相馬氏や野馬追とゆかりのある名所、広大な海岸線、料理屋や旅館の並ぶ風光明媚な松川浦もあり、観光にも適していると思うが、宿泊先や移動手段、買い物ができる場所といった情報を探しづらく、インターネットなどでなかなか魅力を発信しきれていないようなのがもったいないと思う。

宿泊先では、『そうま食べる通信』編集部から 4 名の方が懇親会に参加してくださり、それぞれの仕事や魚市場の様子、情報誌の編集の裏話などをざっくばらんに聞かせてくださった。とても楽しく、なおかつ一般市民の目線でのお話が聞けたことは貴重な機会になった。

最後に、相馬市職員の皆様には、休日にもかかわらず丁寧にご対応いただき感謝申し上げます。また相馬市観光協会の皆様、語り部の五十嵐様、『そうま食べる通信』編集部の皆様にも温かくご対応いただき、本当に良い 1 日を過ごせました。ありがとうございました。今後も何かの形でつながりが持てましたら幸いです。



## 5. 参加者情報

### 5.1. 参加者数（内 1 名欠席）

	合計	女性	男性
参加者	10 名	5 名	5 名
宿泊者	10 名	5 名	5 名

### 5.2. 参加者年代

	30 代	40 代	50 代	60 代	70 台
年代	0 名	0 名	6 名	4 名	0 名

### 5.3. 参加者地区

横浜市神奈川区	横浜市港南区	横浜市都筑区	相模原市	座間市
1 名	1 名	1 名	2 名	1 名
秦野市	葉山町	藤沢市		
1 名	2 名	1 名		



## 6. 視察研修便参加者アンケート集計

今回は参加者 10 人でした。内 1 名体調不良で欠席。

解散時に受理した回答数は 8 で、() 内の数字が有効回答数です。

### (1) 参加のきっかけ

- a (04) 福島でお手伝いしたいと思ったから
- b (06) 日程や工程がよかったから
- c (----) 知人・友人に誘われたから
- d (02) その他
  - ・視察研修に参加したかったから
  - ・あまり訪れる機会のなかった被災地の話を聞きたかった
  - ・現状を知りたい

### (2) 情報提供

- a (07) ちょうどよかった
- b (01) 少なすぎた
  - ・訪問場所、大まかなルート
- c (----) 多すぎた

### (3) 活動内容

- a (05) 非常に満足
- b (03) 満足
- c (----) 不満
- d (----) 非常に不満

### (4) 今後も kfop のボランティア活動に参加しようと思いますか。

- a (08) 参加したい
- b (----) 参加したくない
  - ・現地ニーズがある限り、また繋がり続けたい

### (5) 計画に示している現地活動等に参加したいと思いますか。

- a (08) 広域便
- b (05) バス便
- c (08) 視察研修便
- d (03) その他

### (6) 今回の活動についてご意見、神奈川に伝えたいこと（自由に）

- ・ これまで知らなかった相馬市、新地町の状況をよく知ることができました。とても良い研修になりました。
- ・ 2月という日程はあまり良くなかった（参加者数、天候、インフル流行など）ので、反省点として今後の計画で考慮する必要がある。（今回は調整で2月となった。）
- ・ 避難対象外（受け入れ側）の8年目の状況をいろいろな立場の方からお話を伺い有益な時間でした。新しい街づくりのスタートを知ることができ、避難がなかったからこそコミュニティを維持することを大切に実施できたと感じました。
- ・ 福島の沿岸部、被災の地、知らずに訪れもせずの場所が、あまりにも広く（当然ですが）、あらためて復興に向け日々活動している方達を想いました。
- ・ 現地の方々が復興への熱い想いを抱いていることを知ってほしい。
- ・ 2日間とも、現地の状況を知るととても良い機会となった。現地の方々がたくましく前へ進もうとされる姿を見せていただき、少し安心できた。災害を踏まえた暮らし方等は神奈川でも取り入れたい内容がたくさんあった。研修に向けご準備いただき感謝申し上げます。

#### (7) 今後の活動に期待すること（自由に）

- ・ 福島の窓口となってあり続けてほしい。
- ・ 今回の相馬市、新地町では、海開きに向けた海岸清掃や、防災緑地など何らかのボランティア活動が企画できるかもしれない。
- ・ 入念な準備と継続的な人と人のつながり、信頼関係で成立する活動だと思います。8年がたつて地域ごとのニーズ変化に応じるのは難しいと思いますが可能な限り続けてください。
- ・ 視察の名でも、現地の方のお話を伺うだけでも、応援になるなど。また続けることを希望します。
- ・ 海岸（砂浜）清掃とか、バス便を出せないか（現地のニーズもある）（人数が多いとよい）
- ・ 飯舘への研修便はどうか。
- ・ 現地のニーズに合った活動を考えると、これまでのスタイルから変わっていくことはやむを得ないと感じている。

#### (8) アンケート回答者の属性

- 性別：男性(04),女性(01),無回答(--)
- 年代：20代(--),30代(--),40代(--),50代(04),60代(02),70代(--),無回答(01)
- 職業：会社員(03),自営(01),パート(02),家事(--),無職(--),その他(01),無回答(01)
- 経験：初めて(--),2-3回(--),4-5回(--),6-9回(01),10回以上(06),無回答(01)



## 7. 会計（実績）

（単位：円）

項目	金額	個数	合計	備考
バス費	117,880	1	117,880	端数倶楽部支援金（寄付）
宿泊費	1,000	10	10,000	kfop 事業 3 費
飲食費	7,964	1	7,964	kfop 事業 3 費
バス代実費（バス代）	5,600	10	56,000	参加者自己負担
バス代実費（旅行保険）	200	10	2,000	参加者自己負担
高速代実費	17,680	1	17,680	参加者自己負担
宿泊実費	7,500	10	75,000	参加者自己負担
飲食実費	16,256	1	16,256	参加者自己負担
語り部代実費	2,000	1	2,000	参加者自己負担
雑費（実費）	3,564	1	3,564	参加者自己負担
研修報告冊子化代	5,000	1	5,000	azbil みつばち倶楽部（寄付）
研修報告冊子化代	5,000	1	5,000	端数倶楽部支援金（寄付）
合計			318,344	

※バス代実費、宿泊費等は参加者の自己負担。参加者が直接バス会社、宿泊先へ支払い。

※バス代金の一部は、富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部様の支援金（寄付）を活用した。

※視察研修報告書の冊子化費用は見込みで計上

（azbil みつばち倶楽部様、端数倶楽部様の支援金（寄付）を活用）

以上



かながわ「福島応援」プロジェクト

福島 93 便（視察研修 6 号）報告書《相馬市》

保護用紙